



学芸員 小林龍二

## 「生き物での楽しい交流」

「カラ水槽」はありませんか？

皆さんのお宅には「水槽」はありますか。そうです。魚を飼ったりするあれです。物置や庭の隅などをよく思い出してみてください。心当たりのある方も多いのではないのでしょうか。

私は、一般家庭でのカラ水槽の所有率はかなり高いとみています。水槽は割れない限りは寿命を終えず、カラであればその中に別のモノを入れて保管できるので、案外捨てられずに長持ちするものです。現代の消費社会に反していますね(笑)。私も保育園のころに祖母に買ってもらった幅30センチの水槽をまだ持っています。もう20年モノです。

## 金魚を長生きさせる方法

せっかくの水槽も使わなくては宝の持ち腐れです。では、なぜ皆さんの家にはカラの水槽

があるのか、お気づきでしょうか。私が考えるその理由は皆さんは意外に思われるかもしれませんが。それは「金魚すくい」です。金魚すくいから金魚を飼いはじめ

(通称「金魚救い」と、初めは楽しいし、かわいいけれど、そのうちに飽きてきて気を抜くとすぐに死んでしまいます。そしてそこで終わり。という実にはかないパターンが多いように思っています。

私の経験では、飼い始めたころに抱く「楽しい」「かわいい」という気持ち、周りの人や同じように金魚を飼っている人と共有して飼うと、飼育の楽しみは倍増します。さらに、しっかりと世話が続けられれば金魚は死なずに長生きします。家族や近所の人、友達など、複数の人で飼うと情報交換もできて面白いですし、会話のきっかけにもなります。知人とペット自慢をシェアしたり褒めあったりするのは本当に楽しいですよ。

## 生き物を楽しみましょう

これは、犬や猫、さらにはアシカの調教師の世界をも含んで言えることですが、自分の飼っている生き物が「世界一おもしろいかわいい」と思っている人の数は、日本だけでもたぶんおそらく数千万人はいるでしょう(個人的な予想ですが)。今ではインターネットを使って遠くの人と交流もできます。共通の趣味は年代も性別も越えて交流ができて、きつと自分の世界が広がりますよ。

これまでの連載でも書いてきましたが、生き物には魅力がいっぱい。生き物と接することはとても面白く、なぜこれをもっと皆で楽しまないのか私は昔から不思議でした。1人で飼育していても1人の満足で終わってしまうので、これはちょっと暗そうです。せっかく面白いのですから、より多くの人と共有すれば楽しみがより大きなものになるのは間違いありません。

## 水族館で生き物の交流を

私が水族館で働きたいと思った理由も、館内でお客さんとたくさんお話をしたいと思うの

も、全ては生き物を通して色々な人と出会って楽しみたいからです。水族館で働くことを目指していた学生時代にも、生き物や水族館をめぐるたくさんの方との出会いがありました。そして、その人たちが私を応援してくれからこそ、今の私があるのだと思っています。

もし家にカラの水槽があったら、水を張って何か飼ってみてはいかがでしょう。ぜひ、挑戦してみてください。そして私に声をかけてください。飼育方法などに関しては「水族館の小林」が、生き物をめぐった楽しい交流は「単なる生き物好きの小林」が、2つの顔でお待ちしております。

水族館は、ただ魚を見るためのだけの施設ではありません。生き物に関してならば何にでも活用でき、水族館の楽しみ方や使い方は利用する人次第です。飼育員に会いに水族館に来るのも楽しみ方の1つです。思わぬ情報や裏話などが聞けるかもしれませんよ。

次回からはまた違った切り口で生き物の魅力をご紹介します。お楽しみに。